

「学校安心ルール」

(明治小学校)

＜基本的な考え方＞

- 学校安心ルールは、あらかじめルールを明示することにより、子どもたちがしてはいけないことを自覚したうえで、自らを律することができるよう促すことを目的として作成したものです。
- 子どもたちには日頃より、基本的な約束に示されたことがらを心がけることを伝え、ひとりひとりがルールを守ることの大切さや相手のことを考えることができる、「より良い社会（学校）」をめざしています。
- 第１～３段階の基本となるものは、『体罰・暴力行為を許さない開かれた学校づくりのために』の「児童生徒の問題行動への対応に関する指針」によるものです。

対応 段階	学習の時に	他の子に対して	先生に対して	その他のルールとして	学校等が行うことができる対応
基本的な 約束ごと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嘘をつかない ・ ルールを守る ・ 人に親切にする ・ 勉強する 				
第１段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間におくれる ・ 授業に関係のない話をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ からかう、ひやかす ・ 無視する ・ 物をかってに使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導を素直に聞かない ・ 指導に対して反抗的な態度をとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物を大切にしない ・ 自分の机等に落書きする ・ 学校の物をかってに使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ その場で注意 ・ 場合によっては家庭連絡 ・ 個別指導 ・ 自己を振り返る活動
第２段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のじゃまをする ・ 大声の私語を止めない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間はずれにする ・ 悪口、かげ口を言う ・ こわがるようなことをしたり言ったりする ・ 物や友だち本人にやつあたりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導を無視する、逃げる ・ 指導に対して反抗する、挑発的な態度をとる ・ からかう、ひやかす、バカにしたようなことを言う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物やゴミを、学校の外に投げる／中庭に落とす ・ 学校の物を故意に壊す ・ お菓子や物などをおごる ・ お金の貸し借り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ その場で注意 ・ 家庭連絡 ・ 複数の教職員による個別指導 ・ 自己を振り返る活動（ふりかえりシート）
第３段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中、故意に妨害をする ・ 悪口や文句などを聞こえるように言う ・ テストのじゃまやカンニングを繰り返す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いやがることを無理やりさせる ・ 暴力をふるう（プロレス技をかけるなども） ・ 物を故意にこわしたり、すてたりする ・ 物を盗る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導に対して激しく反抗する ・ こわがるようなことをしたり言ったりする ・ 押す、突き飛ばす、ぶつかるなどの暴力をふるう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 万引きなど法律に違反するようなこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭連絡 ・ 一定期間の別室における個別指導及び学習指導（ふりかえりシート） ・ 関係諸機関（警察・こども相談センター・区役所等）と連携し、学校内で指導を行う ・ 状況によっては個別指導教室を活用した指導を行う
	第３段階よりも重いと思われる事象や違法行為（窃盗や傷害・恐喝行為など）については、学校は教育委員会事務局の担当指導主事と連携し、対応について協議する。				

＜ルール表作成上の留意点＞

- ※この「学校安心ルール」の内容は、教育振興基本計画に示している学校の安心・安全のためのスタンダードモデルです。明治小学校では、スタンダードモデルをもとに学校実情に応じた学校安心ルールを作成しています。
- ※学校は児童生徒ひとりひとりの状況等も十分にふまえ、対応について判断します。
- ※「学校等が行うことができる対応」については、あくまでも例示であり、学校の判断で対応することがあります。
- ※ケースによっては、関係諸機関（児童相談所、警察、民生委員、大阪市教育委員会など）と連携して問題解決にあたります。
- ※学校生活以外の事案に関しては、段階にかかわらず関係諸機関との連携となる場合があります。（SNSにかかる事案に関しても同様です。）